

令和 8 年度 県立古河第三高等学校自己評価表

目指す 学校像	<p>「自立・敬愛・創造」の校訓のもと、自力で自らの立ち位置を定め、自他共に尊重し、新たなものを創り出そうとする気概と柔軟さを持って広く社会に貢献できる人材を育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自ら学び、考え、判断し、行動できる生徒を育む学校 ○ 自他共に尊重し、思いやりの心にあふれた生徒を育む学校 ○ 柔軟な思考で、気概を持って未来を切り拓く力をそなえた生徒を育む学校 		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成 状況
<p>大学の合格者数は国公立大学が 17 名、私立大学がのべ 381 名であった。国公立大学では前期日程で東京学芸大学・筑波大学に合格者を出した。総合型選抜・学校推薦型選抜の受験者が増加傾向で、入試の形態が多様化しているため、それぞれに生徒が対応できるように指導していくことが今後の課題である。</p> <p>学校として組織的に取り組んでいる「総合的な探究の時間（SS）」を充実させていく。社会に開かれた教育課程の一環として、地域課題や社会貢献を念頭に多様な取組を展開する。</p> <p>部活動においては、生徒達は自主的にかつ積極的に活動した。特別活動や学校行事に関しても、文化祭や球技会を実施し、生徒の主体的な取り組みと共に望ましい成長を実感できた。</p> <p>生徒募集においては、9 年連続で志願者数が定員を下回った。志願者は増加しているので、最初から選ばれる魅力ある学校を目指し、広報の手段や機会をさらに工夫していく必要がある。</p> <p>これまで以上の教育活動の充実を図り、地域の伝統校として地域の期待に応えるとともに、信頼を確立する。主体的で積極的な学習意欲を喚起し、学びの楽しさを実感できる授業を目指し、豊かで確かな人間力の育成を図る。</p> <p>交通事故件数は減少しており、警察等との連携により安全教育の充実を目指す。学校安全に全職員で取り組む覚悟を持つ。</p>	1 希望する上級学校への確実な進路実現	<p>①成長プロセス（1年：自己発見、2年：自己発展、3年：自己実現）を軸に、探究学習や多様な進路行事、面談を連動させ、生徒の視野を広げ主体的な進路選択を支える。</p> <p>②進路講演会や「進路だより」、学校HP等を活用して生徒・保護者との適切な情報共有を徹底し、生徒が自ら「一步踏み出す」ための動機付けを強化する。</p> <p>③大学の公開講座やオープンキャンパスへの積極的な参加を推奨し、学問的関心を喚起すると共に、職業や学部・学科に対する解像度の高い理解を促す。</p>	
	2 家庭学習の習慣化	<p>④外部模試結果の定期的・多角的な分析に基づき、生徒の学習課題を明確化することで、学習意欲の向上と家庭学習時間の増進を図る。</p> <p>⑤生徒がシラバスや進路調査データを活用し、志望校合格に必要な学習量を定量的に分析して中長期的な学習計画を策定する機会を設け、計画的学習の重要性を認識させる。</p>	
	3 豊かな人間性を身につけるための取り組み	<p>⑥授業や課外活動を通して自己有用感を醸成し、生徒の自律・自立の精神を育てる。</p> <p>⑦教養講座や図書館資源の活用により、多角的な知見と豊かな人間性を涵養する。</p> <p>⑧体験型学習・集団活動を通して、生徒の社会性を育み、実践力の強化を図る。</p> <p>⑨部活動や生徒会、JRC 活動等の教科外活動を活性化させ、キャリア・パスポートを活用して、責任ある行動を維持・継続する態度を養う。</p>	
	4 広報活動の充実	<p>⑩各種説明会や中学校訪問等の機会を戦略的に捉えて情報を発信し、本校の特色や教育成果を可視化することで、地域や中学校からの信頼と期待を高める。</p>	
	5 個に対応した指導	<p>⑪生徒・保護者との強固な信頼関係を構築するため、年2回以上の三者面談を軸に、適宜二者面談を柔軟に実施し多角的な対話を通じて、個に応じた最適な支援を展開する。</p> <p>⑫学習指導要領に基づき授業進度・レベルを最適化し、生徒の理解力向上を図る。</p>	
	6 学校安全の徹底	<p>⑬定期点検の精度向上と防災意識の啓発により、全校的な危機管理能力を高め、安全安心な学校環境を維持する。</p>	
	7 働き方改革の推進	<p>⑭相互支援の体制構築と時差出勤の活用を推進し、組織的な業務改善を通じて超過勤務時間の縮減を図る。</p>	
	8 授業改善	<p>⑮授業第一主義のもと、相互授業見学等の研鑽を通じて指導力を高め、生徒の授業満足度 3.2以上を実現する。</p>	

評価基準

A：十分達成できている

B：達成できている

C：概ね達成できている

D：不十分である

E：できていない

三つの方針		具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	「自立・敬愛・創造」の校訓のもと、自力で自らの立ち位置を定め、自他共に尊重し、新たなものを創り出そうとする気概と柔軟さを持って広く社会に貢献できる人材を育成する。 ○自ら学び、考え、判断し、行動できる生徒 ○自他共に尊重し、思いやりの心にあふれた生徒 ○柔軟な思考で、気概を持って未来を切り拓く力をそなえた生徒		
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	○授業を学力向上の最重点拠点と位置づけ、三年間を見通した生徒育成計画に基づき、質の高い授業実践と不断の教材研究を推進する。 ○学習・部活動・行事を横断的に繋ぐ「総合的な探究の時間(SS)」を核とし、多様な他者との対話を通じて社会貢献を目指す「グローバル市民」を育成する。 ○確かな学力を土台に生徒自らが志を立て、その実現に向けて能動的に学び続ける「アクティブ・ラーナー」を育成する。		
	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	○自ら課題を見つけ、主体的に学び行動しようとする意欲ある生徒 ○多様な価値観を尊重し、他者との対話や協働を通じて社会への貢献を目指す生徒 ○将来、リーダーとして地域の政治・経済・文化を牽引する高い志を持つ生徒		
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
国語	基礎学力の向上を図る	・全校対象の漢字小テストを実施し、生徒の学習意欲を喚起するとともに、各学年の習得状況を的確に把握して指導の充実に繋げる。		
		・個に応じたきめ細かな支援を行い、その成果と課題を明確にする。		
		・学習内容の定着を図るため、生徒が教員に質問しやすい対話的な環境を構築し、放課後等の時間を効果的に活用した自律的な学びを促進する。		
	進路実現のため自主学習定着に努める	・ノート・課題等を定期的に点検することで、自主学習の習慣化を図る。		
		・予習・復習の確立や模試の解き直し等の指導を通じ、自ら学びを継続するための具体的な手法を習得する。		
		・進路学習部主催の小論文模試の円滑な実施に向け、国語科として事前指導の徹底や専門的な助言を通じた組織的な支援を推進する。		
		・大学入試の傾向分析に基づいた対策指導を通じ、生徒が自律的に自主学習を深める力を養う。		
わかる授業の工夫、改善に努める	・シラバスの作成を通して、教育目標に添った授業計画を立案する。			
	・各種研究会や研修会に参加し、自己研鑽に努める。			

評価基準 A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:できていない

地歴 公民	基礎学力の向上と定着及び授業研究の推進	・小テストや課題プリント、レポート等を効果的に活用し、基本的事項の確認と確実な定着を図る。			
		・わかりやすく効果的な授業を目指し、教員研修の充実を図る。			
		・生徒の自発的学習を促し、学習意欲を高められるよう、授業改善を推進する。			
		・知識・理解の定着のために、問題集を効果的に活用する。			
数学	基礎・基本の定着を促進する	・单元ごとに考查を実施することで、学習のつまづきを早期に発見し対応する。また、必要に応じて補習を実施する。			
		・映像資料やパワーポイント、1人1台端末等のICTを活用し、数学的な事象に対する関心や理解を深める。			
	家庭学習の習慣化に努める	・定期的な問題集用のノートの提出を通して、家庭学習の習慣化と意欲向上を図る。			
		・長期休業中の学習課題を通し、既習内容の確実な復習と定着を図る。			
		・シラバスを通して学習目標を共有し、見通しを持って予習や考查準備に取り組めるよう支援に努める。			
		・模擬試験の結果を有効に活用し、家庭においても自ら応用・発展的な内容に挑戦する習慣を育む。			
	進路実現のための指導を工夫する	・模擬試験の結果から学習の定着度を確認し、自らの課題に主体的に向き合う態度を育てる。			
		・各種課外では、レベル別講座やコース別講座など講座内容を工夫して実施する。			
		・各種研修会や入試問題の分析で得た知見を授業に反映させる。また、教員相互の授業参観を通して、指導力の向上を図る。			
	理科	基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る	・小テストの実施や課題の提出を通して、基礎知識の着実な定着と学習習慣の確立を図る。		
			・映像資料やスライド等のICTを効果的に活用し、自然の事物・現象に対する理解を深める。		
			・基礎的な観察・実験の技能の確実な習得を図る。		
科学的な思考力・表現力の育成を図る		・既習事項を基に観察・実験の考察を深め、科学的な表現力を高める。			
		・グループワークやペアワークを通して、対話的な学びを促進する。			
		・3学年において課外授業を実施し、発展的な内容への習得を通して、大学入試に対応し得る実践力の養成を図る。			
科学的に探究する態度を育成する		・観察・実験を通して自然現象への興味・関心を喚起し、多角的な考察を促すことで、科学的に探究する力の育成に努める。			
授業改善を主とした指導力の向上を図る		・相互授業参観を通して教科内で情報を共有し、授業改善に努める。			

評価基準

A：十分達成できている

B：達成できている

C：概ね達成できている

D：不十分である

E：できていない

保健 体育	体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を育成する。	・各種目の特性に応じた技能の習得、および社会生活における健康・安全への理解を深め、健やかな心身の育成を図る。			
		・体育や保健の各単元を通して、運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに他者に伝える力を養う。			
		・生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。			
芸術	芸術に対する興味・関心の向上 鑑賞力・表現力の育成	・造形的な視点への理解を深めるとともに、意図に応じた創意工夫を促し、創造的な自己表現および美術を愛好する心情の育成を図る。			
		・芸術文化についての理解を深め、表現方法を創意工夫し、創造的に表し、鑑賞力を育てる。			
		・生徒の自主計画による学習を実践し、知識と技能を結びつけて表現する力を育成する。			
外国語 (英語)	基礎学力の定着 演習の充実 入試レベルの実力の養成	・1学年では、英和辞書や参考書、音声教材等を効果的に活用する学習習慣の確立を図る。また、英文の内容理解を深め、身近な話題について自身の考えや意見を発信する力の養成に努める。			
		・2学年では、英文法・語法の知識の定着を図るとともに、英文の内容を速く的確に把握する読解力の向上に努める。また、意見交換やまとまった量の英文を書くことで、英語で論理的に表現する力の育成を図る。			
		・3学年では、大学受験に対応できる実力を養成するために、これまでに培った英文法や語法の知識を活用して、長文の主旨や要点を速く正確に読み取る力、及び聞き取る力をさらに伸ばす。また、様々な情報や意見を多角的に分析・検証し、自分の判断を加えて論理的に文章や言葉で表現できる力を醸成する。			

評価基準

A：十分達成できている

B：達成できている

C：概ね達成できている

D：不十分である

E：できていない

家庭	基礎的知識と生活技術の習得・向上	・多様な発問と教材の活用により、学習内容への興味・関心を高め、日常生活に必要な基礎的知識の習得を図る。		
		・実習や実技試験を通して生活技術の習得と向上を促し、生徒自らが成長を実感できる授業を展開する。		
	社会生活の充実・向上に繋がる実践的態度の育成	・社会問題に関連する家庭科の課題を扱い、生活と社会の繋がりに対する関心と理解を促す。		
		・調べ学習を通して情報収集力を養う。また、発表を通して多様な価値観や課題解決方法に触れることで、生徒の選択肢を広げ、適切な判断力と意思決定力を育む。		
		・各領域において、日常生活で即実践できる取り組みを自ら考察し、主体的に行動する実践的態度を育む。		
課題解決能力の向上	・実験・実習での課題を明確化し、個人およびグループの目標を掲げ、協働して取り組む。その過程と結果を考察し、得られた気づきを日常生活へ還元する力を養う。			
	・課題解決学習「ホームプロジェクト」を通し、家庭における自身の役割を再認識するとともに、個の自立や家庭生活の改善・向上に向けた具体的な実践へとつなげる。			
情報	情報社会に主体的に参画するための資質・能力の育成及びメディアリテラシーの醸成	・問題解決に関連したデータの収集・分析を行い、情報活用能力を育成する。		
		・情報及び情報技術を活用した授業を展開し、問題解決能力を育成する。		
		・情報社会の問題点を多角的に考察し、情報モラルやマナー、知的財産権等への理解を深めることで、適切に情報を扱う情報リテラシーを習得する。		

評価基準

A：十分達成できている

B：達成できている

C：概ね達成できている

D：不十分である

E：できていない

教務企画	授業時間の確保	・授業時間の確保に努め、出張等に伴う授業の振替率96%以上を維持する。	
		・授業時間を有効に活用するため「授業開始のチャイムは教室で聞く」という共通理解の徹底を図る。	
		・曜日別の授業予定時間数をもとに曜日変更等を行い、可能な限り総授業時間数の均一化を図る。定期考査ごとに可能な限り不均衡を是正する。	
	広報活動の充実	・学校公開や中学校訪問、塾説明会等を通して、児童・生徒や保護者、教育関係者および地域社会に対して本校の特色を広く発信するとともに、Webサイトを効果的に活用した広報活動を展開する。	
		・学校案内やポスターの質的向上を図り、中学校・塾等への配布を通して本校の特色を広く周知する。	
	教育課程の改善	・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、授業改善や学習評価の工夫、教育課程の改善を図る。	
	校務支援システムの活用	・統合型教務支援システムの更なる活用を推進する。	
	図書館利用の促進	・生徒の読書活動・読書指導の場である「読書センター」としての充実を図る。	
		・生徒の学習活動支援・授業充実の場である「学習センター」としての整備を図る。	
		・生徒・教職員の情報ニーズへの対応や情報収集・選択・活用能力育成の場である「情報センター」としての充実を図る。	
		・図書専門委員会を定期的に開催し、図書館便り・カウンター業務・展示コーナー作成・行事参加・生徒図書委員研修会への参加等、生徒が積極的に活動できる委員会活動を目指す。	
		・総合型入試や推薦入試に対応できる書籍・資料の充実を図る。	
		・授業や受験勉強に利用できる図書館・視聴覚室作りを進める。	
学校と保護者、同窓会との連携を密にして、PTA・同窓会の活動の円滑化、充実を図る。	・PTA総会や授業参観、学校公開・文化祭等の各種学校行事への参加を保護者に呼びかける。		
	・ICTツールを積極的に導入し、PTA会員との連絡体制をデジタル化することで、情報共有の迅速化と校務の効率化を推進する。		
	・本校のホームページ等を利用してPTA活動の広報に努める。		
	・地区別等のPTA活動に教職員も積極的に参加する。		

評価基準

A：十分達成できている

B：達成できている

C：概ね達成できている

D：不十分である

E：できていない

進路学習	I 10月実施の進路希望調査にて進路の別の未定者を各学年2%以下にする。	1年「自己発見」 2年「自己発展」 3年「自己実現」 ・進路希望調査、進路・学習に関する意識調査を実施し、生徒の実態を把握するとともに問題点の検討とその改善策を講じて学年の適切な進路・学習指導をサポートする。		
	II 10月実施の進路希望調査にて大学進学希望者の学部系統別未定者を1年 25%以下、2年 10%以下、3年 5%以下にする。	・生徒の進路希望状況を分析し、希望実現をサポートする。 ・進路行事や面談、普段の対話から生徒の知識を広げ、進路選択の一助とする。		
	III 民間就職内定率 100%を継続する。	・進路講演会、「進路便り」の発行、学校ホームページ等を活用して生徒・保護者・教員に適切な情報を提供し、動機付けをする。		
	IV 国公立大学・難関私立大学合わせて50名以上の合格者を出せるよう、学年・生徒を支援・指導する。	・上級学校の公開講座の受講やオープンキャンパスへの参加を勧めるとともに、バス見学会や大学研究室インターンシップを実施し、職業や大学・学部・学科への理解を深める。		
	V ICT活用による学習の一体化を推進し、生徒の活用率90%以上を達成する。	・入試・模試結果を分析し、学年や教科の実態を把握し、学習・進路指導の改善に努める。 ・ICT学習支援プラットフォームを活用し、授業・自主学习・模擬試験の連動を図り、学習の一体化を推進する。		
生活環境	1 基本的な生活習慣の確立	・HR や各授業、集会等での服装・容儀指導		
		・三高デー（校外登校指導）		
	2 心身の健康増進	・日常的、定期的に健康観察・保健調査・健康診断・健康相談を実施し、生徒の心身の管理に努める。		
		・病気や感染症予防に関する知識の習得と健康増進を促す。		
		・スクールカウンセラーとの連携を密にして、多様化する生徒の悩みに対応する。		
	3 安全教育の推進	・交通安全教室 「スマホ」安全教室 性教育講話 〈1学年対象〉		
		・薬物乱用防止教室 〈2学年対象〉		
		・防災避難訓練		
	4 危機管理体制の強化	・生徒とのコミュニケーションの緊密化		
		・年間2回のアンケート調査及び不定期の被害調査等によるいじめ等の未然防止・早期対応		
		・保護者・地域・関係機関との連携強化		
	5 社会人としてのモラル・マナーの習得	・SNSの正しい利用についての意識啓発		
・生徒会を中心とした自主規制意識の醸成				
6 学校環境の整備	・清掃用具の管理、清掃指導を通して学校環境の美化等情操面を養う。			
	・教室内の空気・照度・飲料水等の環境生成検査、校内の安全点検を実施し、安全安心な学校環境を実現する。			

評価基準

A：十分達成できている

B：達成できている

C：概ね達成できている

D：不十分である

E：できていない

特別活動	特活関係行事全体を見直し、生徒の自主的活動を推進する体制を整備する	・各行事の計画は、年間計画を見据えた上で立案する。		
		・各行事の企画・運営にあたっては、各学年や各分掌との連携を十分に図る。		
		・各行事では、生徒の自主性・創造性が発揮できる環境や機会を提供できるように計画する。		
	生徒会活動の活発化と充実を図る	・各委員会の計画的で活発的な活動を推進する。		
		・文化祭・球技会では、生徒の自主性・創造性が発揮できるように十分検討し、改善する。		
	部活動の充実	・部活動への加入率を増加させるとともに、退部する生徒数の減少を目指す。活動時間を確保し、心身のたくましさや豊かな心を育成する。		
・部活動の運営・予算等の問題点について検討し、改善を図り、施設・設備の充実に努める。				
探究推進	行事の計画・実施を行う	・チームキャンプ、SS 校内コンテスト、面接対策会、SS 成果報告会の行事を円滑に運営する。		
		・「SS」の意義等を周知するための説明を生徒・教員に適宜行う。		
	総合的な探究の時間「SS」の計画実施を行う	・「SS」の円滑な運営のために、教員間での相談を密にする。		
		・「SS」の反省が次年度に生かせるように改善する。		
	関係機関との情報交換と協力の依頼	・外部との意見交換等を行い、協力機関等と連携する。		
		・新規事業の可能性を模索する。 ・市教育委員会との連携を強化し、事業を計画する。 ・大学等との連携を強化し、学術的な視点を取り入れた探究活動の充実を図る。		

評価基準

A：十分達成できている

B：達成できている

C：概ね達成できている

D：不十分である

E：できていない

1 学年	基本的な生活習慣の確立	・挨拶や礼儀、言葉遣いや身だしなみ等の規範意識を高め、規律を遵守する人間性を育む。		
		・規則正しい生活と体調管理を促し、欠席・遅刻・早退のない学校生活を目指す。また、欠席・遅刻連絡を含め保護者との連携を密にすることで、学校と家庭が一体となった指導体制を整える。		
		・面談等を通して生徒の状況を的確に把握し、個に応じたきめ細かな支援を実践するために、組織力の強化に努める。		
		・授業の開始時間や行事等での集合時間を守るなど、時間を厳守する態度の育成に努める。		
		・清掃や委員会活動などにおける役割分担を明確にし、所属意識を醸成する。		
		・「今、すべきことは何か」を自ら考え、状況に応じた適切な判断と行動ができる生徒を育成する。		
	基礎学力の向上	・将来に向けた具体的なイメージを形成できるよう、進路情報を段階的に提供・明示する。		
		・3年後の自己実現に向けて、学習の積み重ねの重要性について理解を深め、家庭学習の習慣化を促す。		
		・授業を大切にす姿勢を養い、課外授業や校外講座を積極的に活用しながら、思考を深める体験を促す。		
		・定期考査や校外模試への動機付けを積極的に行い、偏差値 50 (GTZ : B2) を超える生徒が半数以上、55 (GTZ : B1) を超える生徒が 50 名以上となることを目指す。		
		・成績不振の生徒と保護者を対象に学年主任面談を行い、家庭との連携を深めることで学習習慣の立て直しを図る。		
		・成績と学習時間の相関関係や学習成果を見える化し、生徒の学習意欲の喚起を図る。		
	良好な交友関係・連帯意識の育成	・チームキャンプの実施を通して、交友関係を築き、より良いクラスづくりに向けて主体的に行動する精神を育む。		
		・LHR等のクラス活動や学年単位のレクリエーションを通して、集団の一員であることを自覚し、互いの連帯意識を高める。		
		・文化祭や球技会等の学校行事、部活動やボランティア活動等への積極的な参加を働きかけ、協力し合える雰囲気を作る。また、安心安全に過ごせる教室環境を整える。		
		・探究活動を通して自己の意見を深化させ、多様な意見を享受しながら「自立」「敬愛」「創造」の精神の育成を図る。		
	進路の意識付け	・LHRや授業時間を通して、学習の意義と目的について理解を深める。また、大学見学会を通して大学進学を目指す生徒の視野を広げ、適切な目標設定の一助とする。		
		・事後の教科指導に活かすため、外部模試の分析会を実施し、指導の改善や充実を図る。		
		・文理分け説明会や進路講演会、三者面談を通して、生徒・保護者の進路意識を高め、2年次の適切な文理選択の実現を図る。		

評価基準

A : 十分達成できている

B : 達成できている

C : 概ね達成できている

D : 不十分である

E : できていない

2 学年	自己管理力の育成	・生徒心得等のきまり（礼儀・身だしなみ・挨拶・SNS の利用等）を遵守する規範意識を高め、豊かな人間性を育む。		
		・充実した学校生活を送れるような雰囲気づくりに努める。欠席等が多い生徒については、保護者との連携を密にし、面談等を通じて一人ひとりの状況に寄り添ったきめ細やかな支援を行う。欠席・遅刻・早退をする際は、保護者から学校へ連絡いただくよう、運用の徹底に向けた理解と協力を求めていく。		
		・チャイム前の着席や集合時間の遵守など、自ら時間を意識して行動する態度の育成に努める。		
		・清掃活動や委員会活動における役割分担を明確にし、自ら考えて責任ある行動をとる態度の育成を図る。		
基礎学力の向上		・自らの進路目標を設定し、その実現に向けて日々の学習を積み重ねることの大切さについて理解を深める。特に授業への真摯な取り組みを促し、これからの社会で求められる思考力、判断力、表現力の習得を目指す。		
		・家庭学習の重要性について生徒の意識を高め、「予習・授業・復習」のサイクルを継続し、習慣化できるよう支援する。		
		・課外授業や校外模擬試験に積極的に取り組む態度を育てる。また、校外模試において偏差値 50 超を 90 名以上、55 超を 30 名以上とする目標の達成を目指す。		
		・学期末に成績不振の生徒の保護者と面談を実施し、本人への働きかけや家庭での学習協力について共有を図る。		
主体性および連帯意識の育成		・探究活動や各教科等での横断的な事前学習を踏まえ、目的意識をもって主体的に修学旅行に臨むことで、活動の充実を図る。		
		・文化祭や球技会等の学校行事への主体的な参加を促し、他者と協働する姿勢を育む。		
		・LHR 等を利用したクラス単位の活動や、学年単位でのレクリエーション行事を生徒主導で実施し、自主性および連帯意識の向上を図る。		
		・部活動やボランティア活動等への積極的な参加を通して、「敬愛」「自立」の精神を養い、主体的に行動できるリーダーの育成を推進する。		
進路目標の設定		・様々な進路行事を通して学習の意義と目的を深く考察し、日々の積み重ねが進路実現に繋がることを理解する。		
		・卒業生との懇談会等の進路行事や総合的な探究の時間などを通して、自己の適性と進路の方向性を見極め、次年度の適切な進路選択に繋げる。		
		・外部模試分析会を実施し、進路指導と教科指導の連携を図る。		
		・各種講演会や三者面談、卒業生との懇談会を通して、受験に対する心構えや知識を深め、次年度に向けた受検生としての自覚と意識の醸成を図る。		

評価基準

A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない

3 学年	自律的な精神の育成	・ 社会生活の基本となる身だしなみや言葉遣い、挨拶などの重要性について理解を深め、主体的に実践する態度の育成を図る。			
		・ 自己管理の意識を高め、欠席・遅刻・早退のない基本的な生活習慣の定着を図るとともに、期日を守る大切さについて理解を深める。			
		・ 生命を尊重し、互いに安心・安全な生活を送るために、交通ルールや社会規範を遵守する態度の醸成を図る。			
		・ 社会規範を踏まえた適切な SNS 等の利用について、自律的な判断を促すための啓発活動を推進する。			
進路実現に向けた学力の獲得		・ 生徒一人一人の進路実現に向け、必要かつ十分な学力の修得を支援する。			
		・ 授業の充実を図るため、「予習・授業・復習」の学習サイクルを確立し、学びの定着を促す。			
		・ 課外授業への積極的な参加を促し、学習指導の充実を図る。			
		・ 主体的な学習姿勢を養い、受験生として必要な学習時間の確保と質の向上を図る。			
連帯意識の醸成		・ 学校行事への主体的な参加を促し、集団への帰属意識と連帯感を育む。			
		・ 学校行事や部活動を通してリーダーシップを養う。特に部活動においては、最高学年としての責任と役割を自覚した主体的な行動を促す。			
		・ 体験活動や校外での活動に積極的な参加を促し、思いやりと互いに協力する「敬愛」の精神を育む。			
進路希望の実現		・ 校訓「自立・敬愛・創造」の意義を深く浸透させ、その実践を通じて主体的な進路実現を支援する。			
		・ 進路を多面的に検討し、目標達成に向けて主体的に行動する態度を養う。			
		・ 外部模試分析会を実施し、その結果を活用して進路指導と教科指導との連携を強化する。			
		・ 国公立大学や難関私立大学を高い目標に掲げ、組織的支援を通じた生徒との進路実現の一体化を図る。			

評価基準

A : 十分達成できている B : 達成できている C : 概ね達成できている D : 不十分である E : できていない